

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 4日

公表:令和 6年 3月 29日

事業所名 幼児グループにじこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		人数が多い時や活発な子がいる時は裏庭やテラスに部屋を分けて活動できている。テラスや庭を併用しながら、のびのびと遊べるスペースを確保している。	今後もわかりやすいエリア設定等と整理整頓を心がける。
	2 職員の配置数は適切である	7		一人一人のペースに配慮できるよう、十分な職員配置をしている。	職員は基準以上配置されているが、事務時間の確保が難しい状況にある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		遊びに応じ場所を区切ったり、一つの部屋で環境を整えるように工夫している。視覚的支援を用いて活動内容を伝わりやすくしたり、おもちゃを選べるようにしている。子どもが混乱しないよう、余計なおもちゃは出さず、必要な物を目的に応じわかりやすいエリアに設置している。折りたたみスロープを用意している。情報伝達には掲示板やメール等でタイムリーに伝えている。	随時整頓をしているが、子どもが過ごす場所が視覚的に雑多であると感じることがあるため、子ども目線で改めて環境を見直ししていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		エアコンが新しくなり、夏冬ともに換気しながらでも快適に過ごせるようになった。毎日掃除・消毒をしている。ガラスには保護シートを貼っている。日常の掃除と定期的に行う掃除を予め決め、一年通して清潔で心地よく過ごせるように工夫している。床暖房やエアコンを使用しつつ常時換気を行っている。	使用済みオムツの衛生的な取り扱いについて検討したい。物を収める場所が狭く、物が仕舞い切れないことがある為、大型遊具等の安全な収納についての検討が必要である。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		ミーティングを利用し、なるべく多くの職員が参画できるようにしている。毎日の振り返りで課題を随時確認して目標に組み入れている。	事業所内での検討はしているが、更に広い視野に立って目標設定ができるよう、他部門の情報を得られるよう他部門の職員との意見交換や相談体制を整えられるとよい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		毎年評価を行い改善している。毎年評価表を配布、回収、集計し改善を重ねている	評価の改善点を全職員共有し改善に取り組んでいく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		年に1度ホームページに公開している。	評価の改善点を全職員共有し改善に取り組んでいく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3	以前行った外部評価で改善点が上がった、災害対策としてのBCP作成に今年度は取り組み、年度内に完成する予定。社会労務士、税理士、顧問、IT専門家により、労務関係の整備、職員の目標管理や評価の仕方、運営の課題検討、業務の効率化やセキュリティ強化等を行っている。	次年度も引き続き第三者の意見を取り入れながら、業務改善につなげていく。また、防災対策委員会を整えた仕組みを実際に運用していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		常勤・非常勤とも支援の質が個人により差が出ないよう、研修の機会を設けている。動画と対面の両方で受けられる機会があるのはとても良い。今年度は動画やオンラインだけでなく、外部の集合研修にも行くことができた。オンライン研修が充実し、希望する研修は積極的に受けられる環境にある。	内部研修については、どの職員にも必要な内容を設定しているが、職員のキャリア等に応じ求める内容の幅も広がってきているため、個別のキャリアや興味に応じた個別の研修についてもなるべく偏りがないように積極的に受講の機会を設けたい。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		面談前には、職員から改めて子どもの課題の確認を行い面談に臨んでいる。保護者ニーズと関係機関での支援内容を聞き取り計画に反映している。	保護者ニーズに偏らず、子どものニーズを正しく分析できるよう、児童発達支援管理責任者の交代に伴い、改めて丁寧に職員間での利用者の課題分析や情報交換、情報共有をしていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	初回利用時はツールを用いている。日々の行動については連絡表で職員内で把握できるようにしている。	個別の記述でないわかりやすい共通認識としてのツールを検討していけるとよい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		家庭、関係機関での支援内容を随時確認し、子どもの現在の様子に合わせて、支援内容を設定している。	今後も丁寧に状況を聞き取りながら、支援内容を設定していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	毎日の振り返りには勤務した全職員が必ず参加し、個別目標や課題の検討も全職員が参加している。個別支援会議には非常勤も含めて行われている。必要に応じ児童発達支援管理責任者がケア会議を行い、課題の見直しや目標設定等も行われている。	計画の内容は共有しているが、目標の受け取り方が職員それぞれになっていると感じることがあるため、共通理解を深める必要がある。集団活動の中で全員の支援の状況を把握できていなかったり、焦点を当てられない時があるため、事前の打ち合わせや振り返りをポイントを絞って確認する必要がある。
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		プログラムリーダーが中心になって行い、振り返りやミーティングの中で子どもの参加の様子などを確認し次のプログラムに活かしている。制作については毎月内容を全職員で話し合っている。	制作については毎月具体的な内容をチームで立案しているが、運動についても意見を吸い上げていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	利用者の発達に応じ随時内容の検討を行っている。利用者の様子を踏まえながら、ミーティングで決めている。	発達に応じた設定は行っているが、運動遊びや裏庭遊びについては新たな工夫を検討していけるとよい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		個別の課題と集団でのコミュニケーション等を組み合わせ作成している。	専門家の意見や他機関の計画内容も参考にしながら、さらに内容の充実を図りたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		前日の振り返りや当日の朝に確認している。前日のミーティングでも確認を行い、当日はボード記入や口頭での打ち合わせを行っている。毎日必ず行い、分担が固定化しないようにしている。	引き続き、情報を共有し、確認をしていく。

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		毎日振り返りを行い共有している。ヒヤリハットや子どもの様子の共有、気付いたこと、保護者からの相談等話し合う機会がある。振り返りでは全職員が発言できる機会を設けている。当日勤務でない職員も情報共有できるよう連絡票などで申し送りしている。	引き続き、全職員の意見等が反映できるような機会を設ける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		支援後、記録をとっている。中でも必ず皆で共有すべき内容を別紙記録用紙に起こし確認できるようにしている。	よりわかりやすくポイントを押さえた記述のスキルアップを図る。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		6ヶ月毎に見直しを行い、必要があれば都度見直しをしている。	引き続き必要に応じ見直しをしていく。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		担当者が必要に応じ参画している。必要に応じ多くの職員で情報を共有している。	必要に応じ積極的に参画していく、また、そのことを保護者に周知していく。また、職員間で適宜情報を共有していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		必要に応じ密に行っている。	引き続き丁寧に情報を共有し必要な支援を行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	1	重症心身障がい児については、保護者を通じて情報の共有をしている。当事業所では重度心身障がいの専門PTが月1回支援に入っているため、専門的な指導を受けながら対応している。	関係機関と直接情報を共有する機会は難しいため、今後も保護者を介しての情報共有と専門家からの指導により丁寧な療育を行っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	保護者を通して情報を得るようにしている。緊急連絡先等は把握している。	今後も保護者を介し最新の情報を得ていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		必要に応じ行っている。担当者会議の出席、行事の見学、施設見学、電話などで情報共有を行っている。	どの利用者にとっても移行がスムーズにいこう、保護者の意向を確認しながら、連携をしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	学校については直接的なやり取りは無いが、必要に応じ教育委員会との面談の場に同席し情報提供を行っている。また、全卒園児に対し就学支援シートで学校への情報共有を行っている。	どちらかと言うと事業所からの一方通行の情報提供になっているため、学校公開に参加する等して、積極的に情報を得ていくようにする。保護者OBを招いて就学勉強会等を行い学校の情報を得ていく。引き続き支援シートを丁寧に作成していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		年に1回(ST)の技術支援を受けたが、もう少し頻度が上がるとよい。児童発達支援センターや訪問個別指導等の内容を支援に反映させている。	今後も、保護者を介し情報の共有をしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	保育園、幼稚園、他事業所などに併行通園しているため、特にそのような機会は設けていないが、外部からのバリアフリーなコンサートの情報をお知らせするなど、園外でのそのような機会について積極的に情報を提供している。また、職員が保育園で1週間の現場研修を受け、障がいのない子どもの保育について学ぶ機会を得た。定期的に学びを続けたい。	必要に応じ検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6		月1回自立支援協議会に参加。年1回の地域子育てイベントに参加している。	引き続き積極的に参加し、現場からの声を届けていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡ノート、個別記録、口頭、面談、電話、おたより、メール等で共通理解を図っている。	さらに発達支援と保護者支援のスキルアップを図っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	ペアレント・トレーニングのプログラムという形式ではないが、日々子どもの強みに注目しながら発達に応じた関わりについての伝達を行っている。ペアレントと題しての直接的な勉強会は開催していないが、就学勉強会や音楽療法勉強会、事業所主催の茶話会、保護者会等を行い、保護者の対応力支援を行っている。	職員自身が保護者支援のスキルを身につけるよう、また、地域の情報や制度について精通するよう研鑽を積んでいく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に丁寧に伝えている。	今後も丁寧にやっていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		集団活動・コミュニケーション・運動・身辺自立などの項目から支援計画を立案し、同意を得ている。	今後も丁寧にやっていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		6ヶ月に1度の面談の他、必要に応じて話す機会を持っている。	今後も丁寧にやっていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		年1回の保護者会と年2回のバザーにより交流の機会を設けている。また、勉強会等でも交流する機会を設けている。	保護者の意見を取り入れながら、適宜開催していく。柔軟に対応していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	できるだけすぐに対応するようにしているが、内容を検討しているうちに時間が過ぎてしまったこともある。	チームで話し合い、体制を整えて、適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		月1回のおたより、年4回の季刊誌、メール等による一斉のお知らせにより発信している。年4回の季刊誌、にじのこたより、ホームページ、玄関掲示板、ブログ等で発信している。	今後も適宜行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		同意書により丁寧に説明し、承諾を得ている。取り扱いについても同意書に従っている。また、職員に対しても個人情報守秘の宣誓書をとっており、法人には個人情報管理責任者を設置している。	今後も徹底していく。

非常時等の対応	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		子どもにはジェスチャーや絵カード等、特性に応じた対応をしている。保護者へは丁寧な言葉掛けを心がけ、家庭やご家族の状況に応じたやり取りを行っている。口頭で伝えきれない場合は連絡帳の他、メール等も活用している。	今後もスピードや便利さだけでなく、誤解なく内容が伝わるよう注意を払っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		年2回のバザーのお知らせを地域に掲示している。コロナ禍が緩和されミニバザーの告知を広げ、多くの方に来ていただくことができた。	適宜検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		災害対策委員会でBCPの作成が進んでいる。地震避難訓練、嘔吐処理研修などを行った。	防災委員会では、BCP作成中であり、年度内の完成を目指し準備をしている。完成した際には、保護者に周知・説明していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年数回、避難訓練を行った、防災士が施設を内覧し、ソフト面・ハード面についてアドバイスをもらうことができた。	引き続き備蓄品の点検、避難訓練を定期的に行う。また、防犯に対する訓練を行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時に説明し、利用者台帳、緊急時対応カードにて把握している。現在にこのでの服薬はないが、薬の変更があった場合は申し出ていただくように周知している。	新学期毎に書類の更新を行うと共に、状況の変化があった場合に申し出るよう保護者に周知する。予防接種の情報は全職員に周知していないが、必要に応じて知らせしていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	3	3	現在食物アレルギー対応児は在籍していないが、アレルギーやその他アレルギーについては保護者に確認しそれに基づいて対応している。指示書が必要なお子さんは現在いない。	適宜対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		毎日の振り返りで確認している。担当職員が報告を集計し、職員間で共有し、解決策等を検討している。	今後も引き続き徹底した確認情報の共有を図る。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		毎年全職員対象に研修を開催し、内容を季刊誌にて全職員、保護者に報告している。また、年間の虐待防止委員会の報告書を全職員に配布するとともに、委員会の内容でタイムリーに共有すべき内容は事業所に持ち帰りすぐに情報を共有している。	虐待防止委員会の報告等を迅速に行う。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		身体拘束委員会にてマニュアルを作成し、行う場合には説明し同意を記載している。毎回の面談で説明、確認をし、個別支援計画に記載して同意を得ている。個別日誌にも当日の対応について記入し保護者に確認を得ている。	引き続き、身体拘束適正化委員会の開催と従業員への周知、研修等を行う。日々の支援において、常に本人目線での適切な支援は何かを話し合っていく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

改善できた点

- 8 41 災害対策としてのBCP作成に今年度は取り組み年度内に完成する。また、法人がどのような第三者から業務改善に係るアドバイスを受けているかの周知がなされていなかったが、今回の集計結果を検討する中で周知することができた。
- 28 職員が保育園で1週間の現場研修を受け、障がいのない子どもの保育について学ぶ機会を得た。
- 40 コロナ禍が緩和されミニバザーの告知を広げ、多くの方に来ていただくことができた。
- 42 防災士が施設を内覧し、ソフト面・ハード面についてアドバイスをもらうことができた。また、備蓄品については施設備蓄の他、利用者個別の備蓄品をお預かりし備えることができています。

次年度も今年度の課題や改善点を目標に反映させ事業運営を進めていきます

2. 3. 4. 5. 8. 10. 13. 14. 15. 41. 42の項目について改善して参ります。